

海外安全対策情報（2018年4月～6月：ナミビア）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当地はアフリカの中では比較的安全と言われているが、金品目的の軽犯罪は恒常的に発生しており、邦人旅行者が被害者となる事件も発生している。最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によると、首都ウイントフックが位置するコマス州における犯罪発生件数はナミビア全体の約4割である。首都ウイントフックにおける犯罪は主に住居侵入、暴行、盗難、車上荒らし、車上強盗であり、犯行集団は首都ウイントフックの貧困層居住地域（カタトゥーラ地区）に存在する。犯行集団の多くは貧困層の素人集団であり、プロによる犯行は少ない。貧困層居住地域にはナミビア伝統料理を提供する観光客で賑わうマーケットが存在し、昨年、日中に邦人が路上強盗に遭う被害が発生している。

（2）当地の失業率は、2014年の28.1%から2016年は34%と近年増加傾向にあり、特に若い世代の失業率は2016年に37.8%と近隣国と比べて非常に高く、それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物は容易に換金できる、カメラや携帯電話等の電子機器である。当地ナミビア安全保障省の犯罪統計の数値では、当国における携帯電話の盗難被害発生件数は、2014年の4,446件から2016年は6,075件と、過去2年間で27%の増加を示している（参考 近隣国失業率：南アフリカ26.7%、アンゴラ26%、モザンビーク24.37%、ボツワナ17.6%、ザンビア7.53%、ジンバブエ5.09%）。

（3）環境・観光省のデータによると、当地を訪れる外国人観光客数は年々増加傾向にあり、2015年の1,519,618人から2016年は1,574,148人と3.6%の増加を示している。それに伴い、観光客が多数訪れるスワコップムントとウォルビスベイを管轄するエロンゴ州の犯罪発生率は、2014年から2016年にかけて12%増となり、観光客が被害者となる犯罪は増加している。邦人観光客数も2015年の2,192人から2016年は3,957人と44%の増加が見られ、旅券盗難被害は2016年の6件から2017年の9件と33%の増加、今年2018年に入ってから1月に1件、2月に1件、邦人旅行者に対する強盗被害が発生している。

（4）銃器に関連した刑事事件、警察庁発表の統計によると増加の傾向はないが、当地の治安当局は年々増加する銃器の増加、盗難や持ち主の管理不十分による紛失に伴い、銃器関連の犯罪増加につき懸念している。近年、体感治安の悪化により国民が安全意識の向上に関心を示し、銃の免許取得者は年間6,000～7,000

人のペースで増加している。銃器盗難件数は2016年に過去最高の250件を越えており、当地の銃器を使用した強盗は全体の強盗事件の内24%、銃器を使用した殺人事件は全体の殺人事件の14%となる。

2 外国人に対する犯罪の事例

(1) 4月9日、午後7時頃、当館から北へ約3km、グッチャーストリートでドイツ人観光客に対する車上荒らし事件が発生。ドイツ人観光客の53才男性が車を路上に停め買い物をし、戻ってきたところ窓ガラスが割られ、後部座席に置いてあったバッグを盗まれていた。被害はバッグの中に入っていた、現金約3,000ナミビアドル。

(2) 4月29日、午後11時頃、当館から西へ約3km、インデペンデンスアベニュー通りのスタンダードバンクの路上ATMにて、ドイツ人観光客に対するATMカード盗難事件が発生。犯人は親切を装い、観光客に近づき、偽造カードと旅行者のクレジットカード機能のついたキャッシュカードをすり替えた。1時間後、10,000ナミビアドルが不正に引き出されていたことに気づき、警察に被害届けを提出した。

(3) 5月13日、午後3時頃、当館から北へ約2km、エロス地区の路上で、ドイツ人観光客に対する路上強盗事件が発生。犯人は路上でドイツ人観光客にナイフを突きつけ、観光客のバッグを強奪した。数時間後、当館から北西約8kmのカタトゥーラで警察が、犯人を確保、抵抗したため発砲した。犯人は病院へ搬送された後、死亡が確認された。

(4) 5月18日、午後3時頃、当館から西へ約3kmのインデペンデンスアベニュー通りで、イタリア人観光客に対する盗難事件が発生。犯行は2人組の男によるもので、イタリア人観光客が信号待ちをしているところ、2人組の内1人がレンタカーを運転する観光客に話しかけて気をそらし、その隙に実行犯が左後部座席のドアを開放しバッグを盗難。バッグにはカメラや現金、各種カード類が入っていた。

(5) 6月2日、午後9時15分頃、当館から南へ6kmのダンベッカーズストリートで、拳銃強盗事件が発生。住人である女性（国籍不明）が帰宅した際、入口ゲートで二人組の拳銃武装した強盗が待ち伏せをしており、女性を脅し住居内へ侵入。その後、同居する被害者女性の両親が金品等は所持していない旨強盗に告げると、被害者女性の両親に鉄パイプの様なもので暴行を加えた。被害者女性の父親は頭部を骨折するなど重傷。被害は携帯電話2台、ハンドバッグ等。

(6) 6月17日, 午後5時頃, 当館から西へ約4kmのシンプソンストリートで, フランス人女性観光客2名に対する路上強盗事件が発生。被害者は宿泊先のホテルから500m程離れた商店へ買い物をするため徒歩で移動中, 白のベントから複数名の犯行集団が突然現れ, バッグを強奪された。被害は旅券, 携帯電話, 少額の現金。

(7) 6月16日, 午後3時頃, 当館から北へ約1.5kmの丘の頂上(コーンと呼ばれる, ウィントフックを一望できる観光客に人気のある場所)で, フランス人観光客2名に対する強盗・傷害事件が発生。ツアー中, フランス人女性観光客が4人組の男性集団に襲われ, 殴打され, カメラ4台, 双眼鏡を強奪された。被害者2名は殴打された際に怪我を負ったため, 添乗員により病院へ搬送された。

(8) 6月20日, 午後2時頃, 当館から西へ約2.5kmのインデペンデンスアベニュー通りの両替所で, 在留邦人が現金盗難被害に遭った。在留邦人が携帯アプリで銀行口座の情報を調べていたところ, 2人組に腕を掴まれた。その後, 不審に思った邦人が所持していたショルダーバッグを確認すると, バッグの中の現金が入った封筒が盗まれていたことに気付いた。邦人のショルダーバッグは開放状態であり, 外から現金が入った封筒が見える状態になっていた。

(9) 6月27日, 午後10時頃, 当館から北へ約1.5kmのオロフパルムストリートに居住している中国人宅で強盗事件が発生。4人組はフェンスを飛び越え, 正面玄関から中国人宅に侵入し, ナイフで住人を脅し, 40,000ナミビアドル, 拳銃2丁, 携帯電話, パソコンを強奪した。

(10) 6月28日, 深夜, 当館から西へ約1kmの中国人が経営する民宿で, 中国人観光客2名に対する拳銃強盗事件が発生。中国人観光客2名が宿泊していた部屋に, 拳銃武装した犯行集団が侵入し, 現金, 旅券, 携帯電話, カメラを盗難した。犯行集団は銃を中国人観光客らの頭に突きつけ, 金品等を要求した。怪我人は確認されていない。

3 薬物・危険ドラッグについて

(1) 薬物や危険ドラッグ等の密輸に際してブラジルから南アフリカ, 南アフリカからアンゴラの経由地として当国が利用されている。観光地や首都ウィントフックの一部バーではマリファナやコカインが使用されている。事件に巻き込まれない様, バーやクラブには近寄らないことが肝要である。

(2) 今年6月15日の午後12時頃, 当館から西へ約300kmの港町ウォルビスベイで,

ブラジル, 南アフリカを經由してきた412kgのコカイン（市場価格206, 000, 000ナミビアドル, 日本円で約20億円）が押収された。当地国境付近では, 2017年1月から現在まで, ナミビア国籍, 南ア国籍, アンゴラ国籍, マラウイ国籍, ザンビア国籍を含む少なくとも35名が薬物密輸により逮捕されている。

4 交通事故

観光地においては交通事故の増加も著しく, 2014年の269件以下（正確な数字は未確認も269件以下）の報告件数から, 2015年は365件, 2016年は371件と発生率は過去2年間で27%の増加を示している。交通事故発生の主な原因は, スピード超過, 不注意である。直線で片側一車線という道路も大きな要因のひとつである。大型幹線道路で高齢者や初心者, または大型トラックが低速で走行していることに起因する無謀な追い越しも交通事故発生要因のひとつである。飲酒運転手の事故に巻き込まれないよう, 信号が青でも, 交差点に進入する際は左右の確認をする等, 注意が必要である。

5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

6 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○4月4日付, ATMカード窃盗・強奪事案

○4月19日付, タクシー組合のストライキ情報

○4月30日付, 外国人旅行者を狙った犯罪増加

○5月28日付, ナミビアにおけるE型肝炎発生に関して

○6月1日付, 外国人旅行者を狙った犯罪情報（了）